

ジェルネイル被災地支援活動

被災地支援活動プログラム

Vol.3 「ジェルネイルで被災女性の心のケアを！」 2014年12月13日(土)

東日本大震災女性被災者の心のケアを目的とした第3回目の「ジェルネイル施術プログラム」を12月13日(土)に開催しました。

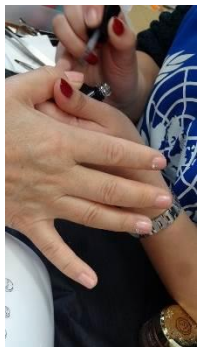
会場：陸前高田市 片地家仮設住宅集会場

施術者：参加9名／a 片地家仮設住宅 b 矢作小学校仮設住宅 c 諏訪仮設住宅にお住まいの住民

施術方①ネイルケア：2名（前回施術参加は2名）

②ジェルネイル：5名（前回参加者は4名・新規1名※今回も長持ちする溶剤を希望）

ジェルネイル施術プログラム



今回も施術を楽しみに仮設住宅で生活されている皆さんが会場に足を運ばれました



今回は皮膚科に行く為に、ネイルテクニシャンに相談しネイルケアのみ施術される方も。



会場には親子で参加された方もいらっしゃいました。母のデザインと同じ様にして欲しいとネイルテクニシャンに相談。仕上がりが大変喜ばれていました。



ストレス検査・女性支援のアンケート実施

平成24年3月に内閣府及び警察庁が公表した「平成23年中における自殺の状況」によれば、平成23年中の自殺者で原因・動機が特定できた者のうち、うつ病等の精神疾患を原因・動機とする者が4割に上っています。

厚生労働科学研究においては、被災者の心理的反応として、被災から数か月後から数年の時期に、PTSDの遷延化、震災ストレスからくる抑うつや不安障害等の症状がみられるとされており、阪神・淡路大震災後7年が経過した時点で、自宅が全壊し復興住宅に暮らす被災高齢者のうち約2,000人、被災児童等約3,100人にPTSDの遷延化がみられたとの報告があります。

上記の現在と過去の実例を元に、被災者の孤独や不安の増大等により自殺者が増加する可能性も指摘されており仮設住宅入居者や在宅被災者に対する長期的な心の健康を維持するための取組が求められています。

その為、国連の友医療団より、多岐に及ぶ医学的側面からの要望が多数ある中から、今後のプログラムを推進する考えです。

1. ストレスホルモン検査の様々な状況下での対比データの取得。

- ① 対話、おしゃべりの前後
- ② 施術以外のアクションプランと対比した場合
- ③ 施術時の個別（1対1の施術時）と複数での施術時
- ④ 施術場所での数値の比較（集会場 or 自宅訪問）
- ⑤ ネイルテクニシャンと施術を受ける方との相性の比較
- ⑥ 前回の施術データを活用しての比較

2. 長期的、継続的な対比データの取得。

- ① 同じ仮設被験者の長期的な後追い検証データの取得とその推移の分析
- ② 上記①に於ける施術効果分岐点（施術の効果が認められなくなる場合）の検知
- ③ 施術初心者と経験者との比較
- ④ 仮設被験者の施術間隔を空けた場合との比較等

